

平成21年第1回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成21年3月12日（木曜日） 午前10時開議  
邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（14名）

1番	田部井 健 二 議員	2番	黒 川 洋 子 議員
3番	小 沢 泰 治 議員	5番	山 田 晶 子 議員
6番	岩 崎 律 夫 議員	7番	加 藤 和 久 議員
9番	小 島 幸 典 議員	10番	立 沢 稔 夫 議員
11番	小 倉 修 議員	12番	横 山 英 雄 議員
13番	本 間 恵 治 議員	14番	細 谷 博 之 議員
15番	相 場 一 夫 議員	16番	石 井 悦 雄 議員

○欠席議員（1名）

17番	大 野 栄 議員
-----	----------

---

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金 子 正 一	町 長
川 田 定 昭	教 育 長
堀 井 隆	総 務 課 長
立 沢 茂	企 画 課 長
小 島 哲 幸	税 務 課 長
中 村 紀 雄	産 業 振 興 課 長 兼 農 業 委 員 長 事 務 局 長
並 木 邦 夫	生 活 環 境 課 長
岡 村 静 代	保 険 年 金 課 長
横 山 正 行	土 木 課 長
石 井 貞 男	都 市 計 画 課 長
増 尾 隆 男	住 民 課 長
諸 井 政 行	福 祉 課 長
飯 塚 勝 一	会 計 管 理 者 長 兼 会 計 課 長
沼 田 正 美	水 道 課 長
遠 藤 幸 夫	学 校 教 育 課 長
金 子 重 雄	生 涯 学 習 課 長

---

○職務のため議場に出席した者の職氏名

田 口 茂 雄	事 務 局 長
田 部 井 春 彦	書 記

---

◎開議の宣告

○横山英雄議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時00分 開議]

---

◎一般質問

○横山英雄議長 日程第1、一般質問を昨日に続き行います。

発言を許可します。

---

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○横山英雄議長 3番、小沢泰治議員。

[3番 小沢泰治議員登壇]

○3番 小沢泰治議員 3番、小沢泰治です。通告してあります質問事項、5項目あるわけですが、それに従いまして質問をさせていただきます。きょうはいろいろお世話になります。よろしく願いいたします。

また、きょうは、一般質問の日程が2日に及ぶということで、午前中貴重な時間割いていただきましてありがとうございます。

非常に厳しい現在置かれております日本あるいは、また邑楽町、そして世界じゅうがその困難な中にあるわけですけれども、9月のリーマンブラザーズのショックがなくとも、住宅サブプライムローンのショックがなくとも、日本はこれまでの国の失政による少子化による人口の減少、そしてこれまで成長を続けてきた、それを支えてきた終戦後の日本の人口の増加、その増加した本当に日本のために貢献した国民が、町民が、私初めとしましてですが、高齢化に向かっている、高齢化率が非常に高くなっているということですが、これから人口の構成を考えた場合に、ますます財政的あるいは経済規模が縮小するときに来ているのではないかと思います。それに輪かけて9月からサブプライムローンのショックが世界じゅうを駆けめぐっているわけですが、そういう中であっては、個性あるといえますか、やはりこの地域で、あるいは日本国中においても、光る邑楽町にならないかと思えます。

そういう中で、きょうは時間割いていただきましたので質問させていただくわけですが、質問の届け出は5項目になっております。町長室の開放事業、それと多目的ホールの建設にかかわること、そして給食センターの老朽化のこと、町長みずからのトップセールスに関する事、あるいは公約の具現化ということで報告してありますが、まず最初に、過日もお話ししたわけですが、町長室の開放事業につきまして、10カ月ですか、実施されたわけですが、詳しい資料を総務課のほうからいただきますと、見せていただきました。それによりますと、実数で62人、男女別でいきますと男33人、

女29人、それで20組の前向きな皆様が町長室を訪れて、いろいろこれからの邑楽町のことについてお話ししたのかと思います。また、それに携わった町役場職員の皆さん非常にご苦勞であったと思うのですが、延べ110人だそうです。

そういう中で1人でいらっしゃった方が11回ですか、延べ20回あったわけですが、1人でいらっしゃった方が11回、2人の方が4回、3人の方が3回、4人、5人、6人、7人とあるわけですが、そういう中でやはり町政に対する前向きな考えをお持ちの方がいらっしゃったわけで、いろいろお話しなさったと思うのですが、その件につきましてまず町長のほうから感想をいただければと思います。よろしくお願いします。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変町民の皆さんから貴重なご意見をいただいて、町政運営に参考にさせていただいていると、そんな思いであります。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 非常に参考になったということですが、その参考になった幾つかの話題になったこと、これはと思うこと、それをできれば5項目ぐらいお挙げいただければと思います。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 すべてが町政運営に対しての内容ですので、5項目ということですから、1つは分別収集等に関するごみの処理の問題、それから学童保育の問題、それから寄附金の使い道ということもありました。それから、平地林の管理の問題等が大変これからのすべて参考になるものでありますけれども、あえて5点ということでございますので、そのような状況であります。

もう一点ということですが、中学校の多目的ホールについて扇風機をというような話もありましたが、そういった点が大変貴重なご意見だったかなというふうに、すべて貴重な意見でありますけれども、あえて5点ということでございます。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 分別、学童、寄附、平地林、中学の多目的ホールですか、そういうことであったということですが、非常に町民に差し迫っている問題が話の話題になったのかと思いますが、これについてほとんどの、ほとんどというか、今お話しの中では、1人の方がいらっしゃっているのが多いかと、全体でも1人の方が多いわけですが、今おっしゃられた中でも1人の方が多いかと思うのですが、そういう中であって、その次の質問が行政への反映はどうかということで、今お話しした件につきましては、ある意味ソフト面といたしますか、お金のかからないで済むことが基本的にはあるのではないかと思いますけれども、この5項目とは限らず、全体でこれからの邑楽町、将来に向かっての邑楽町の行政、財政、それについての、特に21年度の事業についてお話の中で反映さ

れた案件、事象がありましたらお話しいただきたいと思います。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町長室開放の中でご意見をいただいて即21年度に反映ということも中にはありますし、これからのまちづくりをしていくということの貴重な意見ということでありますので、それがすべて21年度に反映するというものではありませんが、そういったご意見を大切にしながら、大きな視点に立ってまちづくりを進めていくと。具体的にこの問題、この問題ということについては、その計上してあるものもありますけれども、そのような状況で考えております。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 スピード感あふれる行政執行ということですので、ぜひこういういろいろ町民から出た意見、要望等を実行に移していただければと思います。

先ほどの5項目ですが、現在も強力に推進しているところもあります。分別にしろ、学童にしろ、こういう経済状況下においては特にですけれども、自然環境の問題を考えれば平地林もその1つ、邑楽町で育つ子供たちのことを考えれば中学の施設整備も1つ、すべて当然なことではないかと思えます。私、ぜひ、昨日もお話に出ましたが、費用対効果ということも念頭に置きまして、やはり土曜開庁となればいろいろ直接的にかかる電気料もそうです。人件費もそうです。あるいは、福利厚生といえますか、職員の皆さんが月曜から金曜まで仕事を一生懸命して、土日ぐらいいは休みたい、あるいは家庭サービス、あるいは自宅の庭の手入れ等あるかと思えます。そういう中で参加人員が62人ですか、実数で。出席参加職員が、以下これ張りつけられるのだと思うのですが、延べ110人。そういうことを考えた場合に、ぜひ21年度の途中からでもいいと思うのですが、当初からでも結構ですが、この辺を見直ししていただければと思います。

そして、年間12回になるわけですけれども、その中でやはり地域におろした行政区ごとの調整を皆様に知っていただく機会をつくっていただければ、また各区民の皆さんから、子供からお年寄りまで参加できるような、やはり地域懇談会、地区懇談会はためになるものだというものを示せるような企画を立てていただいて、開催したところが参加者はゼロ、あるいは少人数であるような企画ではいけないと思います。ぜひ町を執行して4年間ゆだねられたわけですから、町民が、町民すべてが町長に目を向けて、一生懸命町長と頑張ろう、また地域のためにも皆さんとともに和気あいあい暮らせるような社会ができるようにぜひ検討をお願いしたいと思います。

地域でやるならば、それこそ老若男女すべてが参加できるわけですから、土曜の町長室開放よりも効果はあるし、地域の人々が顔を合わせて、邑楽町の子供たちの健全育成、また防犯、犯罪防止、そういう観点からも非常に役に立つのではないかと思います。各行政区ごとに年に2回とか、あるいは地域ごと、例えば南でいえば篠塚で1カ所、東の狸塚、赤堀で1カ所、中野を2つに分けて、あるいは高島でということで、ぜひ年に2回ほど開いていただいて、今回はこういう者が、課長が出

ますから、あるいは係長が出ますから、担当課も明示していただいでやったら、興味を持って、例えば中学校の教育について、あるいは小学校だ、保育園だ、児童館だということでお話をすれば、やはり若い皆さんにも町政、国政について関心を持っていただけるのではないかと思いますので、ぜひ実行をお願いしたいのですが、町長いかがでしょうか。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町長室の開放について、費用対効果を考えると、小沢議員のお話ですと、多く見直しをするのかなというふうに当初伺いましたが、開放よりもほかの事業をとということがありましたので、私自身は町長室の開放をするということで、町民の皆さんに開かれたということでいろんなご意見をいただくということで開催しているわけですので、費用対効果ということがどういった意味でのご質問かわかりませんが、私は今すぐ効果があらわれなくも、そういった意見を大きく蓄積していくことによってこれは前進していく、そのように思っておりますので、今後も皆さんのご協力をいただいて進めていきたいと、こんなふうに思っております。

行政区ごとの座談会の話については、特に町長室の開放とは違いますからお答えをしていいかどうかという迷いもありますが、これについては昨年も実施をいたしましたし、また町政運営について町民の皆さんに理解をしていただく、知っていただくということは大切なことですので、これはまた実施をしていきたい、こんなふうに思っております。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 費用対効果という表現は直接的なのですが、現実問題として62人の方に110人の職員が張りつくということなのです。おうら広報でも、議会だよりでもいいわけですが、やはり庁舎に用事がある場合は、ぜひ町長室に寄ってみてくださいということで町民にお知らせをすれば、ではきょうは来たから寄ってみるかな、いなければ帰りますし、庁舎には年に何度となく町民全体あるいは町外の方もいらっしゃるかと思います。そういうのと、また費用対効果ではなくて今度はかりにかけますけれども、はかりにかけた場合、どちらが邑楽町町民のためになるか、またひじ肩張らずに町長室に立ち寄れるか、その辺だと思うのです。やはり行政、特に地方、町の行政というものは、サービス業最たるものだと思います。ぜひその点念頭に置きまして、広く町民の皆さんが立ち寄れるような場をつくっていただければと思います。

それで、過日お話聞きましたが、本来ならば課長、これは町長命令で時間割いているわけでしょうから、そのかわりの休みの時間といいますか、そういうのも必要かと思います。そういう中で、ぜひこの町長室開放については一考をお願いし、行政区でやりますと、特に参加した大勢の皆さんが個人の意見なり要望なりを耳にできるわけです。ただ一人町長が、あるいは町の執行部中枢の皆さんが聞くのでなくて、国の政治でも国民第一だとかお話ししていますけれども、やはり町民第一ということでいろいろの意見が町政に反映されると思いますので、ぜひともよろしくお願ひしたい

と思います。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 質問事項2番目の多目的ホール建設はどのように進んでいるか。これは選挙のとき、いろいろ公約上げたわけですが、その中の1つなのですが、選挙の公約を見ますと、健やかに発展する邑楽町をつくるということでまず第1に載っていますけれども、いろいろ公約ありました。その中でやはり、またこれも費用対効果も出てくるわけですが、非常に多くの町民の皆さんの要望があったわけですが、2万8,000町民のものだけのホールであるか、東毛40万都市、そういう状況、大きな町を考えた上でのホールであるか、いろいろ目的はあろうかと思いますが、約束したホールにつきまして現時点でどのような状況になっているかお話し伺いたいと思います。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 現時点では特に具体的に進んでおりません。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 現時点では具体的に進んでいないということですが、2年目の予算と申しますか、船出が4月から始まるわけですが、現在進んでいない状況だということですが、町長の頭の中、胸のうちには、どうするのだという自分なりの、このように実行するのだというお考えあるかと思いますが、その辺をお伺いしたいと思います。任期は4年です。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 多目的ホールと申しますか、これについては以前の質問にもありました。過去において町民の8,000人以上の方の署名で請願が出され、当時の議会で全会一致で採択をされ、それを受けて多目的ホールと申しますか、名称はちょっと定かではありませんけれども、建設に向けて進んできたという状況があります。そういうことを考えますと、多くの町民の皆さんがそういった施設を必要とするということであれば、これは考えていく。私自身も過去にもお答えしました。任期中において、その建設に向けての道筋をつけていきたいというようなことは申し上げたことはありますので、そういう考え方です。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 町民の要望、請願、願い等はいろいろあります。やはり首長、会社でいえば社長たる者は、その会社がどうならなければならないか、将来的に考えてどう進むべきか。行政においては、普通の一般企業と違いまして、一般企業ではそれこそあすもわからないわけです。行政においては、1年、2年でかじを急旋回することはできません。だからこそ約束も大事かと思えます。約束するのも大事かと思えます。なぜかといいますと、2万8,000町民が大きな前へ押し進めようとした施設は10億ですか、15億ですか、13億だかそういうものをかけたときに、2万8,000町



民がそれしよっていけるかということです。

やはり昨日の質問にもありましたが、使い勝手のよい公民館的施設、多目的ホールだとかそういう表現をしますと非常に受けはいいです。いいけれども、ないそでは振れないのです。ましてやこの太田、館林、板倉、その広域圏におきましては、各施設が無料で使えるとか、ここの市町と同じように同じような料金で使える、そういう状況になっているのだと思います。ましてや大勢の人が利用するというのであれば、施設の回転率ですか、利用率、その辺も非常に下がるのではないかと思います。

民間企業で、例えばそれを実行したときに、365日あるいは朝昼晩で1施設を365回以上利用されれば本当に効果あると思いますが、この厳しい人口減少、この9月以来の経済危機がなくとも財政が厳しい中で、やはり要望があったときに客観的に考えて、それはこうなのですよ、こうだからちょっと無理ですよ。例えば大泉の文化むら使えば3分余計時間かかるかもしれないけれども、そういうことで相互に利用し合いましょうよというそういうのを町民の皆さんにお話しするのも、私は先に立つ人の重要な役割だと思います。

そういうことでぜひ、これから来年度予算のお話あるわけですけども、再来年、その次はますます大変です。自然減だけでも大変なのです。そういうことで回りの様子を見ながらどうのこうのでなくて、やはりスピード感あふれる対応、かじ取りの仕方、その辺を考えていただければと思います。その辺で今、頭にはあって、計画ということでお話ありましたが、やはり利用頻度等を考えたときに、どのような施設を町長自身はお考えであるかお聞きしたいと思います。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 この多目的ホールといいますか、町の総合計画では中央公民館という名称になっておりますけれども、名称はいずれにいたしましても、文化活動を本当に熱心に取り組んでいる町民の方は大勢いるわけです。その文化を高めていくということを本当にそれぞれの団体で、それぞれの方々がやっているということ、ほかの町にも負けないぐらい一生懸命やっているかなというふうには私は感じています。それはどういうことかと言いますと、実は先日、東毛広域市町村圏の中で圏域、これは太田、館林、この東毛広域の圏域の皆さんが、文化祭ということで今言われました大泉町の文化むらを利用して、何といたしますか、伝統文化もありますし、それぞれの方が持っている書道ですとか、絵画ですとか、写真展ですとか、生け花ですとか、そして本当にその活動をしている方々の発表の場もその文化むらでありました。その出品展なり発表の場を見たときに、邑楽町の皆さんの文化活動に関係する情熱といいますか、熱心さは大変なものがあるというふうに思っています。

そういうことを考えてみたときに、この庁舎の西側にも中央公民館の用地ということであるわけです。これは先輩の方々がそのような状況で考えていくということの敷地であろうと思っています。

先ほどの質問の中でその費用の問題、維持費的なものということで理解してよろしいかと思うのですが、確かに施設等をつくれば、それに関係する費用は出てきます。しかし、だからといって他の市町に借りられればよろしいわけですが、なかなか多の市町の都合もあって、そういった状況も必ずしも得られないという状況もあると思います。

つい先日、中学校の発表会があるときに、他の町の施設をお借りするというので、費用の問題についてもありました。しかし、その町の決まりで納めていただくということも聞いておりますが、いずれにしても私はそれは施設を整備したり運営するというのは大変なお金がかかります。かかりますけれども、その状況が許せば、やはりそういった文化活動を広めていくということも大切なことだというふうに思っています。これは私だけではないかと思えます。議員の皆さんもそのようにお考えがあると思います。そういうことを一つ一つ積み重ねていくことによって、やはり町としてのよい町での発信ができるのかなというふうな思いがありますので、先ほど具体的にまだ建設については考えていませんということでお答えしましたが、任期の中では、任期中に置いては、それをどうするかということについての道筋はつけたいというのは、そういった思いがあるからということで期待していただきたいと思えます。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 道筋はつけるということですが、規模的にどのようなのをお考えですか、10億だ、13億だ、15億だとありますけれども、本当にその辺よく考えて実行していかないと大変なことになると思うのですが。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ですから、具体的にまだ詰めていないということもありますから、金額がどれくらい、面積はどれくらいということは、今後そういった方向性を進めていく中でまた検討していきたいと思っています。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 わかりました。アドバルーンは大きく上げたけれども、やはり実行は難しいと。2万8,000町民の財布のこともあります。やはりヤドカリではないですけども、5センチのヤドカリは10センチの貝殻には入って、それはしょっていけない、引いていけないのです。その辺十分考えた中で早く実行していただければと思います。ぜひ他市町との相互利用ですか、それを現時点では進めていただいて、早く、今すぐにでも、少子高齢化はどの市町でも統計上わかっております。そして、昨年秋からのこの経済、最初は日本は、昨秋のショックは余り影響ないだろうということで出ました。確かに直接的にはそれに手を出すゆとりがなかったわけですから、日本の政治の誤りでバブルがはじけてしまいました。バブルにしてしまいました。そういう国にしたこと自体が、私国政の誤りだと思っていますし、選んだ町民のこれは間違いかなというふうに思っており

ます。

そういう中で、2万8,000、邑楽郡には大泉町が今合併考えておりますけれども、すると邑楽町が1番で2万8,000、1万6,000、4,000、1万2,000、そういう町があるわけですが、そういうところはこれからあすにも単独で生きていけないのです。一人前には生きていけないのです。この前もお話ししましたが、議員報酬のカット、議員の削減、あるいは諸手当、職員の減員、そういうのを早急にしなければ、それこそ来年、再来年、来年21年は何とかかなと思いますけれども、大変だと思います。そういうことでぜひ次のステップとして施設の利用あるいは投資ということを考えたときに、今後どのように町長、合併までも踏まえた中で思うでしょうか、財政的なもの、あるいは利用頻度、そういうことを考えたときに、お願いします。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 施設の利用については、昨日の質問の中でもありましたが、町の公民館的な施設については大変利用頻度が高くて、多くの町民の方に利用していただいていると。そういう点では、費用対効果ということを考えれば、これは大きな効果があるだろうと思っています。それはやはりそれぞれの町民の皆さんがそこを利用することによって、自分たちの生活を高める、文化活動を高める、あるいは生涯教育を通して自分たちの生活を満たしていくということにつながるわけですから、そのことを考えれば私は利用頻度の高い、これは建物をつくっても、利用されなければこれは全くその効果ないわけですから、それぞれの皆さんが協力をしていただく中で、これは私自身も、議員もそのようなことだと思っています。そういった環境をつくっていくということが私たちに与えられた仕事かなと思っていますから、ぜひこれからもそんな考え方で進んでいければと思っています。お答えになったかどうかわかりませんが、以上です。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 そういうことなのです。やはり利用頻度が高くなければ、しょうがないことです。つくった。絵にかいたもちでそんな利用しなかったら何も意味はないですから。先ほど文化むらのお話出ましたけれども、大泉の。書道展、絵画展、写真展云々、そういう場合に10数億もかける施設が必要でしょうか。決して私は金をかけるだけが能でないと思います。昨日の質問にもありました。公民館の改築あるいは増築、そういうことを念頭に置いた中で、使い勝手のいい施設につくり替える、少ない予算で。そういうことでいいかと思います。やはり大勢の皆さんが集う500人だ、1,000人だ、2,000人だ、この地域には2,000人も施設はないのでしょうか、太田の市民会館が24年ごろからですか、耐震補強で相当お金使うということで、新聞にも載っていましたが、24年ごから市民会館に取りかかるのでしょうか、1,500人ぐらい収容できる。そうしますと、やはりこの東毛が合併して、そういう集会、集まりを実施するに当たっては、では太田の市民会館を使おうではないか。館林の文化会館、大泉の文化むら、そういうことで各個人が芸術、文化に非

常に熱心であるということでもありますから、そういう熱心な皆さんが使い勝手のいい施設をぜひ少ない予算で邑楽町につくっていただければと思います。それこそよろしくお願いします。

続きまして、3番目の給食センターの老朽化と改築について。給食センターも約30年たつのでしようけれども、老朽化しております。そういうことで前町長の久保田町長のときに、私総務文教常任委員会に所属しておりまして、19年度の総務文教常任委員会の視察研修といたしまして役場の管理職の皆さんと委員と給食センターの視察をしてみました。両方とも茨城だったかな。もしかして利根川渡って千葉になってしまったかもしれないのですが、太平洋側の地域の給食センターの見学、視察をしてみました。ぜひ給食センターの改築については、給食センターが原因ではないといたしましても、去年の食中毒事故、そういうのがありまして、非常に老朽化しておりますので、ぜひ早急に実施段階に入っていただければと思います。現在、町長の計画といたしますか、思い、その辺をわかるような格好でお話しいただければと思います。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 給食センターの関係については、過日の全員協議会の中でも教育課長のほうから詳細にわたって報告したと思います。私のほうからもわかりやすくということですので、給食センターについては大変老朽化をしているということでもあります。これについては、今教育委員会のほうでその検討委員会等を要綱といたしますか、それをつくった中で、建設に向けて進めていると。私の建設といたしますか、その方式については、いろいろ担当が調査をしたところ、効率的に、そういった形式的な面も含めてセンター方式がということで考えておりますので、そのセンター方式に向けてこれから検討委員に十分協議をしていただいて、それから具体的に進めていきたい、こんな思いです。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 今、センター方式というお話伺いまして、私もほっとしております。前町長のときから給食センターについては懸案であったものですから、ぜひ早急に実行に移していただければと思います。

また、先ほど合併の話も出ましたが、やはりセンターを今単独でつくって、すばらしいものをつくってしまえば、合併しても、それを壊して利用しないという方向には進まないと思います。現に石岡市、鹿嶋市見てきまして、旧町村のものを更新された施設についてはちゃんと稼働させているわけです。旧八郷町ですか、石岡市においてはそういうところでしたけれども、ちょうど邑楽町と同じくらいの規模なのです。3,500食、そういうものを提供するというので、すばらしい施設ができていました。ぜひこれは食品安全、そういうこともありますし、早く取りかかっていたきたいと思います。

そういう中で、やはり地場食材、地場産品の今度は利用ということが出ますが、センター方式で

あれば独自に食材の調達もできます。そういう中で自校方式で実施したとすれば、各校によっていろいろメニューも違いますし、今度は発注についても何かと繁雑になるかと思います。温かいものが出せるだとか、要望に沿ったものが出せるとかありますけれども、やはり温かいもの、本当の手づくりのもの、手づくりでセンター方式でもやるでしょうけれども、それはぜひ家庭で子供たち家族団らん、そういうことありますし、お願いして、センターでつくと昼食冷たいものを食べるということもあるかと思いますが、それも一つの勉強、教育です。そういうことでぜひセンター方式、お話しいただいたので私も安心してはいますが、お願いしたいと思います。

そして、やはり昨日も出ましたが、邑楽町においては日本のウクライナといいますか、非常に平坦な地で、何でもつくると思えばできるわけです。夏は暑いし、冬は寒いし、やはり農業に関する指導、そういうものが大事だと思いますし、そういう中であって邑楽の米、野菜等いろいろあります。ぜひ米食中心の給食のメニューをつくる。また発注にしても、よく生産側と発注側、利用側、話をし合ひまして、ますます邑楽町の給食センターが魅力あるものになる、また邑楽町の農業が邑楽町のあすを担う子供たちの役に立っているのだ、自信を持てるような供給体制、需要体制、それをつくっていただければと思います。ぜひよろしく願いいたします。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 センター方式ということであれば、今議員がご質問ありましたけれども、その食材の利用については地場、地元で生産された農畜産物の利用というのは、これは可能な限り利用ができると思います。給食センターのほうでも、今運営委員会ですか、給食センターの運営委員会がある中で、献立を含めて、経費的なことも含めて会議を開いた中で進めていただいているということです。現在でも地元で生産された農産物は利用している部分もあります。今後、町で生産された農畜産物がより多く、可能な限り利用していただけるように、またその委員会等にもお願いするようにはしたいと思っています。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 今、検討委員会でどういう献立だいろいろ考えているということお話し伺いましたが、町長みずから積極的にやはり給食センターにも、教育長ですか、みずから給食センターにも働きかけていただいて、1年間にこれとこれとこれとこれとこれと何十種類食料あると思うのです。それを出しまして、こういうものを使うのだと全部並べまして、現在、昨日話ありましたが、邑楽町は米だ、白菜だなんだ里芋だあるわけですが、現実に給食センターが利用する野菜、穀類、芋類、いっぱいあると思うのです。それ挙げていただいて、これをとにかく全部やってくれと、邑楽町の農業の皆さんに、食材で言えばやってくれと。それで、給食センター3,000食あるわけですから、そこで、では供給するという体制を農業関係者につくってもらって、それをつくって給食センターの需要は、給食センターで邑楽町の農業がやっていけるなんてことありません、たかが知れ

ていますから。でも、その使う産品、それを挙げていただいたことによって、それに取り組む、農業の幅を広げるといいますか、そういうことを実行していただければ、今の遊休農地やら、あるいはあすの農業はないのだということで、高齢化非常にしていますけれども、そういう若年の労働、青年といえますか、そういう方が、ではあしたの農業、邑楽町でそういうものを使ってあるのだとしたら、それこそ邑楽町は先ほど話しましたが、気温は夏は高く、冬は寒く、水回り、何とこのですか、水利あるいは乾燥にも耐えられます。

そういうことなので、それをもととした農業の発展がきっと図られるものと思います。それはやはり農協を中心とした農業の活性化といえますか、中村課長のところかな、そういうところが先頭に立って、やりましょうよということでやる気を出すような施策を町がやるべきだと思います。ただ単に、昨秋ですか、暮れか、12月、灯油が上がったので300万だか金、290農家に配ることをやりましたけれども、きのうのお話ですと、千数百軒の農家があるわけですから、その3倍、4倍、5倍の農家がますます活性化するように、ぜひともこの給食センターの需給をきっかけにいただければと思います。ぜひ町長、お願いします。

○横山英雄議長 暫時休憩します。

〔午前11時05分 休憩〕

---

○横山英雄議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前11時20分 再開〕

---

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 給食センターが終わりまして、4番目の町長みずからのトップセールスの成果について少しお聞きしたいと思います。

非常に厳しい現下の経済状況でありますので、より以上のその成果を求められるのではないかと思います。きょうの新聞を見ますと、デフレ懸念が世界に蔓延すると。先ほども話しましたが、そうでなくとも少子高齢化で、縮小均衡に日本の国はなろうとしています。また、地域も特にです。ありがたいことにこの太田、館林、邑楽郡においてはそれが少なかったわけですが、企業立地十分あったものですから少なかったわけですが、この9月のリーマンショック、サブプライムローン、金融派生商品の沈没といえますか、はじけたといえますか、その結果として非常に厳しい、世界中がデフレだということ。資源が下がるのはいいわけですが、需要がなければ下がっても何の効果もあらわれないと思います。

そして、やはり規制緩和等々、いろいろ日本の有名企業というか、そういうところの社長だ、会長だ、先に立って規制緩和等やってきたわけですが、非常にその結果として弱肉強食の社会といえますか、弱者と強者、富める者、その反対の方々があらわれてしまうわけです。そういう中で、

やはりいろいろ規制をするのも大事かと思いますが、またあす、あさって、その次ぐらいですか、世界じゅうが今度1つになって、先進国も振興国も一緒になって、やはり秩序をはっきりさせましょうということで話し合いが持たれるということですが、そうしないとそれこそ日本の場合、穀物自給率ですか、4割を切って、非常に危うい国になろうと今しております。

そういう中で縮小経済、パイが小さくなる中、やはり邑楽町としても、あるいはこの東毛地域としても、日本一、世界一の地域にならなければなりません。先ほども給食のお話しましたが、何十、何百という食材があるわけですから、そういうのをきっかけとしまして、ますます基幹産業である農業の活性化、また邑楽町ここに住む、あるいは近隣、東毛に住む方、あるいは両毛に住む方、北関東、そういう方が邑楽町がこの中心だとなるような施策を打つのが私町長の仕事だと思います。今まで39年間役場に勤めていて、過日、町長室開放のときも私1度伺わせていただきました。ちょっと私の言動に対して腹立ったようですが、やはりあてがわれた総務費の中で、きのうも570万ですか、お給料の話出ましたが、それをいただいて、それで予算がこうだからこういう事業を実行する、そういう時代は終わったのだと思います。

でも、その殻から抜け切れないでいるのが現町長かなと思うこともありますが、ぜひとも公約に掲げましたトップセールスマンとして活躍するということですから、この1年4カ月の期間にどのような自分自身、これは議員に話しておきたいな、あるいは町民にぜひこうしたのだというアピールしたいなというものがありましたらまずお聞かせください。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 日本一、世界一になるためには、もちろん努力が必要だと思っていますし、その目標といたしますか、向かって努力をしていくということはそのとおりだと思っています。しかし、まずその前にやるべきことはやっぱりやらなければいけないのかなと。どういったことをトップセールスでやってきたかということですが、私自身はそれぞれの関係する課の中で、特にこの部分についてはこうしたらどうですかというような形で積極的に県あるいは国に向かってお願いをしてきた経過はあります。昨日もありましたが、企業局の問題ですとか、大変厳しい財政事情ですから、財政負担について県のほうから何とかお願いできないでしょうかというような要望活動も行ってきましたし、農産物では昨年に引き続き東京市場にお邪魔して、町の農産物をぜひ有利な価格でお願いしたいというようなお願いもしてまいりましたし、群馬県が作りました「ぐんまちゃん家」という名称があって、東京のほうにアンテナショップができていますわけですが、そこへも行って、ぜひ町をPRしたくお願いをしてきたということもあります。今後もしできる限りそういった形での活動はしていきたいと、そのように思っております。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 企業局だの東京の市場だのということでお話出ましたが、それはもう決まっ

ていることなのです。例えば大田市場にしても、東京の市場から「ぜひ邑楽町さん、大田市場に出荷してくださいよ」と向こうからお願いに来ているのです、現実が。野菜あるいは肉にしても、ぜひ出荷してくださいよ、民間と取引していても邑楽ブランドで出荷してくださいよということです。米にしてもそうです、現実には。3大産品で言えば白菜、米、肉、里芋、4大だと思いますが、里芋でもそうです。市場からお願いされているのです。そこを回ったからってトップセールスではないでしょう。いかがでしょうか。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 少しでも有利販売をしていただくということについてはお願いに行く、これは市場からどんどん出してほしいと。要望あるということは、地元の農家の方がその需要に合わせたいいものをつくっていると、いい農産物をつくっている、栽培しているということのあらわれ。そのことを有利販売していただくということをお願いすることは、議員のご質問ですと、セールスではないということですが、やはり町の農産物に限らず知っていただくということは、私は大きなセールスになるだろうと思っています。

小沢議員もお仕事関係していること多々あると思いますけれども、座っていたのではなかなか顧客が同じだと思えますから、セールスについては今後も続けていきたいと、こんなふうに思っています。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 町長、セールスとおっしゃいますけれども、ある意味お礼といいますか、そういうことだと思います。お礼も大事ですが、ぜひ新規開拓といいますか、そういうことでお願いします。

それには、やはり今までの殻、役場職員でいらっしゃったから直接的な競争社会にはいなかったわけでしょうけれども、でも町長の選挙のときの公約を見ますと、大泉高校を卒業して39年間お勤めになった。それ以前にやはり民間等の経験もあるかと思えます。経歴を見ますと、私は17年12月21日に高校を卒業して、邑楽町役場に勤めたのだ云々どうのこうの、議会を1期、2期目勤めたのだと書いてありますけれども、卒業後の経歴が載っていないわけですが、そういう期間は短かったのでしょうかけれども、いろいろ経験をしているわけです。何をしていたかはわかりませんが、できれば卒業後何していたというの、このクリーンで誇り持てるまちづくりというふうのに入れていただくと、なお町民の判断もわかったのではないかと思います、中抜きになっているものから、ぜひその辺ももし教えていただければ教えていただきたいのですが。

やはり先ほどもお話ししましたが、世の中循環の社会だと思うのです。私も今、町長から話が出まして、自分で事業をやっているわけですが、私の事務所には私が下手な字でマジックで書いたのですが、循環、確立、展開という言葉が掲げてあります。世の中、世界、地球あるいは宇宙も循



環だと思います。小さい意味の循環、大きい意味の循環ありますが、そういう中でくるくる回っている中で、やはり農業であり、工業であり、役場の仕事であり、例えば保険年金課であればそれが確立しなかったらいけない。住民課であれば、住民課もしかり。その辺が利権だとか、族議員だとか、そういうことでことごとくだめになった最たるものが年金問題ではないかと思います。循環、確立、展開、年金にしてもちゃんと確立して、決められたことをやっていけば5,000万件ですか、そんなの出ないのです。だけれども、厚生族がたるんでいたのでしょう。あるいは郵政族もそうです。あるいは建設族、いろいろありまして、そのうみが今まさしく出てきているのが日本でないかと思います。ぜひそういうぬれ手にあわでなくて、棚ぼた的な発想でなくて、みずから切り開いていくようなことをお願いしたいと思います。

現実に需要と供給がありますから、需要にマッチしたものをつくらなければ売れっこないわけです。民間企業においては、即淘汰されてしまいます。でも、地方公共団体、地方においても需要に見合ったものをしていなくても何とかはつながりますけれども、長続きはしません。ましてや縮小均衡の経済下においては、環境下においては、それはできませんので、ぜひ頑張ってください。

それで、頑張るのには、そのもとがしっかりしていないと私すばらしい営業はできないと思うのです。役場の職員の皆さんが担当替えしたら仕事ができない。そうだと、歯車はよく回りません。トップダウンでも、ボトムアップでもそうですけれども、その辺十分認識した中で、自信を持って私たちが、あるいは役場の職員が前に進んでいく。それで自信を持って進んでいくものに一番弊害になるものがうそなのです。うそをついていると、それは長続きもしませんし、自信を持った営業活動、トップセールスもできません。そのトップセールスをするに当たって、いろいろ選挙終わって1年3カ月たちますが、解決せねばならない問題あるかと思います。また、あってはならないことを、してはならないことをしてしまったわけですが、その自信を持って営業するために正さなければならない、直さなければならないことが幾つかあると思うのですが、その自信を持って積極的に営業するために、まず近隣市町はもちろん、あるいは広い意味で同僚、職員皆さん、そういう皆さんに胸を張って積極活動ができるために何を、どこをまず修正せねばならないか、自分の公約を振り返ってみて何点か上げていただきたいと思います。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、小沢議員のほうに、私、昭和17年の12月21日に学校は卒業しておりませんので……

〔「17年、ごめんなさい」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 そういうことですので余りうそを言わないでお願いします。

トップセールスについては、これは小沢議員が言われますように頑張っていくということはその

とおりでと思っています。これは国のことも言われましたけれども、私国のことはわかりません。町のことをどうするかということで、多くの皆さん方のいろいろな面でのお力をいただいて、そしてこれからも町行政の運営について一生懸命取り組むということは、これは十分ありますので、陰に陽にいろいろご指導いただきながら前へ進んでいきたいと、そういうふうには思っています。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 先ほどは生年月日と卒業のときの間違ひまして申しわけありませんでした。生年月日が17年12月21日ということで、36年ですか、社会に出たのが。それから39年間勤めたということになっているわけですが、本当に済みませんでした。できればその前の2年間、本当は役場にお勤めになったそのいきさつ等もお聞きしたいわけですが、それはそれにしまして、やはり自治体でも、事業でもそうですが、入りがあっての出なのです。入りがあってのやはりその茶わんの、あるいはなべの料理ができるわけです。そういうことでぜひ頑張れるように、これまでの約束ですか、うその約束、あるいはあってはならない裁判ですか、事件ですか、そういうことをしてしまったわけけれども、私は今の答弁、それについては、その辺のことをどうするのか、それをしないと邑楽町はもちろん、東毛においても晴れないと思います。あと一度お話しください。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 卒業後の私の経歴ということは、以前小沢議員の質問が同じ質問があったかと思えます。そういうことで理解をしていただければと思います。主に卒業後は役場のほうで職員としてお世話になったということです。

それから、役場を退職してのことです。いろいろ問題があったというようなことですが、これは再三にわたりまして議員さんのほうからも質疑があって、その中でお答えをしたかと思えますので、これらについても会議録に載っていますので、それで理解をしていただければと思います。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 今お話しいただきましたが、とにかく邑楽町のトップですから、トップにふさわしいトップセールスをしていただくということについては、やはりその2つのことがネックになると思えます。これは消えることはありません。ぜひそれを解消して、お礼参りでなくて、開拓精神を持ったトップセールスをお願いしたいと思います。当然です。

次に、通告の5番目、公約の具現化の進捗状況についてということですが、公約を見ますとすばらしいことがすべてのチラシに載っております。そういう中でまず最初に町の健やかな発展とはどういうことか、単刀直入にお願いします。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 現在、町の事業が行われております。そういうことを考えたときには、健全な状況

での、これはもちろん町民の皆さんの、議会の皆さんのご協力をいただいた上のことですけれども、運営がされていると、そのように思っております。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 町長はそのような認識かもしれませんが、現実に20年度の予算編成、あるいは今議会での特別職の給料の修正動議、これを見ましても原因があるのです、原因が。川田教育長も昨年3月で辞任していれば、いろいろ食中毒問題にも当たらず、またいろいろ非難の矢が飛ばずに済んだのかもしれませんが、本当に副町長、教育長に対しましては、私自身もある意味申しわけないと思います。ただ、川田教育長にあっては、前任の久保田町長に任命されたわけですから、引きどきといいますか、その辺もあろうかと思いますが、本当に問題解決をする健やかな発展、こういうことを考えますと、やはり正すものは正す、その辺が必要かと思えます。私は一番いいのは、議会解散して、また町長辞職して、もう一回うそのない、事件のないそういう方が首長になったら、邑楽町はすばらしい町になれるかと思えます。決して穏やかな、町民と一緒にという町政を運営することは任期中できないのではないかと思います、問題が問題だけに。

続きまして、商工業の振興、整備はどうなっているか、その実行、その辺で私、町長室開放のとき伺わせていただきましたが、やはり先ほども給食センターのお話ししましたが、商工業にあってもやはり足腰を強くするためには何が必要だと。農業の肥料、資材の高騰による300万円の配付、あるいはプレミアム商品券の発行、そういうことを見ても本当に足元から強くなる、それ施策でないと思います。300万あったとしたら、それを農業に使うのであれば、農業の基盤を強くするにはどうしたらいいか、ある意味ソフト面ですよ。基盤整備は邑楽町ちゃんとできておりますから、ソフト面の基盤あるいは精神面、そういうことが大事かと思いますが、商工業において商工会会員が1,000件、組織率が60%ぐらいですか、そういう中で40%は商工会員でない商工業者、サービス業です。その中でプレミアム商品券の発行ですか、それについて町長どのような考えを持っているか。

私は、まず工業部会の指導員の給料を確保してくれということで要望もしました。そういう中で、その辺とプレミアム商品券、60%の組織率、1,000件超の商店、工業、建設、サービス業がある中でどのように考えているか、またその辺についてどういう最終決定をするかお聞きしたいと思います。

○横山英雄議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今、商工業の振興、基盤整備をどのように実行されているかということの前に、20年度予算と特別職の給料がそのような形になったと。それには原因があるというお話がありましたが、議員が言われますようにどのような原因かお聞きできればよかったです。後でお聞きをしたいと思いますが、議会の解散、町長も辞職してということもありますと、これまた大きな問題です。

それはそれとしまして、商工関係についてお答えをいたしますが、今会員、商工業を営んでいる方が1,000件、40%は商工会員でない、それをどう考えるかというお話かと思っております。小沢議員、商工会の理事さんをそういう点では中枢で商工会員さんの会員増強も努めているのかなと思っておりますが、その少ない加入率というのは、私以上に理事さんである議員のほうが内容は把握しているのかなと思っておりますので、そういった中でプレミアムつきの商品券といいますか、今これかの予算審議の中でお世話になるわけですけれども、それが必ずしも足元を強くするものではないというようなお話がありましたが、昨日もお答えしたかと思っております。国のほうで景気浮揚策の大きな考え方から、定額給付金の発行ということ、邑楽町でも全体で約4億2,000万ほどの給付金があるわけです。国のほうは、その給付金についてできるだけ消費をしていただきたいというような思いもあるようです。しかし、そのアンケート等ではいろんな使い道があるようですが、そういった定額給付金の発行にあわせて、できれば町内の商工や商業の商店の皆さんにできるだけ町内の商店ということに限るわけです。商工会員の皆さんということになるとは思いますが、振興策になるかどうかは別といたしましても、できるだけそういう形で町民の方に利用していただければということで考えたわけです。その割合といいますか、プレミアムについては1割と、10%ということですが、細かい点については商工会で検討していただいていると思っておりますが、それを予算の審議の中ではぜひお認めいただきたいと思うわけですが、500万円の予算計上してあります。1割ということになりますと、総額で5,500万円ほどのお金が動くかということになるのかなと思っております。ですから、そういう点では、私は足元を強くすることまではいかないかもしれませんが、その起爆剤といいますか、その1つの糸口になって、商工の皆さんにぜひ力をつけていただけるような思いはあります。これは大変なお金を町民の血税を利用させていただくわけですから、そういう点ではもちろん町民の皆さんにもそういった理解を深めていけるような、また商業者の皆さんも、これから商業を振興していく活力が出るようなやはり企画といいますか、そういった努力もお願いできればというふうに思っています。

それから、この工業の指導員の確保ということですが、やはり予算の中には、これは計上はしてあります。以前は120万だったと思っております。それを工業指導員さんとして、もう5年ぐらいの年数がたった補助金ということですので、そういう面ではやはり工業の皆さんに自助努力をしていただいて、それで自立をしていただくことがという思いもあります。これは補助金というのは、その目的が達成されたか、あるいは達成ということがあれば法令外補助金ということになりますので、議員がいつも大変厳しい財政状況だ、大変な状況だということを考えれば、これらは工業だけに限ったことではありません。ほかの部分についてもある程度目的が達成されたということであれば、やはり減額、これはやむを得ないのかなと。商業指導員さんの関係については120万ということで、合わせて180万の予算計上をして審議をお願いしているというものです。基盤整備のこともありますが、必ずしもインフラ整備は十分ではないと思っています。議員は基盤整備は十分できている

というようなご質問でしたが、今お世話になってインフラ整備も道路も改良を重ねておりますけれども、そういう点ではまだ不十分な面がありますので、これはこれからも努力をして、いろいろご指導いただければと、そんなふうに思っております。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 その辺がやはり私とちょっと基本的な考え方が違うのかもしれないのですが、私は自分の足で1歩、2歩、ある意味町は補助金といいますか、税金だの、国の補助金だ、あるいは交付金だでやっているわけですから、スタンスが違うのでちょっとかみ合わないところもあるかもしれませんが、そういうことで大もとをよくしなければいけないという考えがあります。

それと、やはり500万円利用するということについても、一部の商店、さっき60%の組織率なのですが、それも全県的に平均なのです。なのだけれども、あと400件あるわけですから、その辺すべてに効果が出るような格好が私はいいかなと思っております。そういうことで、また商工会のほうでもお話が出ると思いますので、その辺も質問、提案はしていきたいと思います。

続きまして、全町民、全有権者をだました退職金0円の問題なのです。先ほどトップセールスの話しましたが、やはり0円は不可能なのです。裁判をやってはいけません、議会の中で。その辺があるから、私先ほど言ったのは、辞職して再出発、自分が出てもいいし、ほかの方を出してもいいし、あるいは太田でないですけれども、3人、4人、5人で争ってもいいわけですから、そういう選択を選んだほうが邑楽町のためには絶対なると思っています。町民は今回だまされたから投票行動に移ってしまいましたけれども、きっと再スタートすれば賢明な町民の中からリーダーを選んでくれるものと確信しております。ぜひその辺もお願いしたいわけです。

それと、去年の特別職の給料で50%カットされたわけですが、それについてはちまたで、町内でいろいろ話聞きますと、前倒しで実行しているのですからという話が飛び交っているわけですが、そうではないと思えます。やはり自分の、例えば群馬県知事大澤正明を例に出して、知事がやったから私もやるのです。それと同じことをやるのです。だましなのですよ、町民をだまし。それも0円のこれを配って、その後あえて群馬県知事を引き合いに出して町民をだましているわけです。とんでもないです。私は許せません。あと、議会内でのということは判例にもあるそうなので、絶対いけないことだと思います。

次に、高島地区でバスの運行、これは町単独、それと千代田・邑楽・館林線ですか、それを運行しているわけですが、やはり利便性だとか福祉対策ということでもう少しお金をかけるのであれば、その不自由を来している皆さん方に利便性の面で特に役に立つのが私タクシーかと思うのです。タクシーは民間ですから、先ほどヤドカリの話出ましたけれども、自分でしょっていないわけです。今業者に頼んでいるわけでしょうけれども、全部しよい込んでいるわけです。一応民間に委託するにしても、町がしよい込んでしまっているわけですから、その辺をぜひ検討の余地が私あると思うので、町長の考えを伺いたいと思えます。

○横山英雄議長 金子町長、残り6分ですので手短に。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町長選のときに全有権者をだましたという話がありましたが、私は選挙ではいろいろ約束はしましたが、それは任期中にできるだけ公約に向かって頑張っていきますということは、以前の質問でもお答えをしたと思います。退職金についても、前倒しという話がありましたが、その後の質問の中では退職金に見合う分の給料のほうから、退職金、それはできないということの中から、退職金に見合う報酬を充当させていただきますということになっておりますので、今後も、きのうも具体的に町長の退職金が、ちょっと私も1,400万円ということだけきりなかったのですが、1,490万ということのようですので、それに見合う分を報酬のほうから充当していきたいと、そういうふうに思っております。

それから、タクシーの件ですけれども、今南部地区と北部地区のほうを公共バスが運行しています。この公共バスも大変利用率が、年間でしますと多くの皆さんが利用していただいています。バスとタクシーということになりますと、タクシーということになると個人での利用になるか、公共性がどうなのかということも大きな問題になってくると思います。自由に使えるものと、タクシーで相乗りということになると、これまた大変な状況も出てくると思います。したがって、今のところは福祉タクシーというのがあります。これは一定の条件に当てはまった方ということにはなっておりますけれども、その福祉タクシーの利用ということは多くなっておりますので、ぜひご利用していただくということ。フリーなタクシーということ、フリーというか、議員の質問はそういうことでなくて、バスにかわるタクシーということかというふうに受け止めたのですが、それについては今のところ考えておりません。

○横山英雄議長 小沢議員。

○3番 小沢泰治議員 特に福祉タクシーの件ですけれども、ぜひ実現できるようにお願いしたいと思います。

〔「福祉タクシーは……」と呼ぶ者あり〕

○3番 小沢泰治議員 いや、やっているのだけれども、それを広げる。何というのですか、例えば太田に行っている線がありますよね。そういうのにしても、相乗りなり申し込めばできるだとかその辺の。費用対効果で安く上がればいいわけでしょうから、安くて利便性が向上すればいいわけでしょうから、その辺をぜひ研究していただければと思います。

それから、邑楽町でもシンボリックなイベントの町民マラソンがあるわけですが、これの復活をぜひお願いしたいと思います。それで、やはりそれが何ですか、みんな邑楽町のシンボルタワーマラソンということで、それがすばらしい思っている人もいっぱいいると思うのです。それで、それを実行することによって邑楽町の宣伝にもなりますし、いろいろ邑楽町の特に宣伝、そういうことあると思いますので、ぜひその辺についても復活方お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○横山英雄議長 時間がありません。1分です。

川田教育長。

○川田定昭教育長 時間が過ぎてもいいですか。

○横山英雄議長 簡単にやってください。時間で切ってください。

○川田定昭教育長 答弁できません。

○横山英雄議長 終わりです。

以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。あす13日から18日までの6日間は議案調査及び各常任委員会開催等のため本会議を休会したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○横山英雄議長 異議なしと認めます。

よって、あす13日から18日までの6日間は、議案調査及び各常任委員会開催等のため本会議を休会することに決定しました。

来る19日は、午前10時から会議を開き、平成21年度会計の予算について審議を行います。

---

◎散会の宣告

○横山英雄議長 本日はこれにて散会します。

大変お疲れさまでした。

〔午後 零時16分 散会〕